数学 高等学校 令和7年度(2学年用) 教科 科目 数学B

単位数: 2 単位 教 科: 数学 科 目: 数学B

対象学年組:第 2 学年 A 組~ G 組

教科担当者: (AB組, CD組, EFG組:田中・鈴木・杉山) 使用教科書: (高等学校 数学B (数研出版))

教科 数学 の目標:

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【知 識 及 び 技 能】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

科目 数学B の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数例、統計的な意識についての基本的な概念や問題・法則を体系的に関係するとともに、数字と社 会主活の限力(について認識を高効。 事象を数字化したり、数字的に無釈したり、数字的に表現・ 処理したりする技能を身に付けるようにする。	撮散的な変化の規則性に眉目し、事業を数字的に表現し等等する力、様率分争や 構本分争の位置に著目し、母素服否の関係を推測し目的にもり、標本服否の対定や結果を批判的に考 際したりする力、日常の事象や社会の事象を数字化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振 り返って考察したりする力を要う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	平正 教列 ア、次のような知識及び技能を身に付けること。 ・等意数別と勢比数別について開解し、それらの一般項や和を求めること。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 本 半 か に ・ ・ ・ ・ ・ 本 半 か に ・ が と が に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	・指導率項 裁別と一般項、等差数列、等差数列の和、等比数列、等比数列の和 ・数材 本プロセス数学Ⅱ + B(数併出版) ・一人 1 台端末の活用 等	【知識・技能】 季急から離散的な変化を見いだし、それらの変化の規則性を散学的に表現して考紮すること。 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求める方法について理解すること。	0	0	0	12
	定期考査			0	0		1
	報元 業別 ア、次のようた知識及び技能を身に付けること。 ア、次のようた知識及び技能を身に付けること。 いからいる企製例の一般確や他を求める方法について理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を者に付けること。 ・事象から顕微的な変化を見いだし、それらの変化の規則性を数等的に 表現し考察すること。	 指導事項 係の記号 5、陪差監判、いろいろな数列の和、 機力では大数管目 14 (製価出版) 4プロセス完成ノート数学品(数価出版) -一人 1 台端末の活用 等 	【影考・判断・表現】 いろいろな放射の一般環や和を求める方法について理解すること。	0	0	0	12
	定期考査			0	0		1
2 学期	平正 教刊 ア 次のような知識及び技能を存に付けること。 ・ 衛化式について理解し、事象の変化を衝化式で表したり、簡単な悪化 大で表された製力の・配項を求めらすること。 ・ 数学が開始は、ついて理解すること。現内等を存に付けること。 ・ 本象の再編の対象に、著目、1 個 第2 の事象や社会の事象などを数学的 に捉え、数列の考えを問題解末に活用すること。 自含数の性質などを別いた。 えれると数学的解結法と用いて説明す 自含数の性質などを別いた。 えれると数学的解結法と用いて説明す	・指導手段 機(式)、数字前 ・数材 4プロセス数字目+B(数研出版) 4プロセス設成ノート数等の(数研出版) ・一人1台海水の信用 等	「知識・大統則」 記考・刊酬・ 光明』 主称のに学習に取り加た階度」 解化式について関係し、事金の定化を耐化で大乗したり、簡単な無化で大乗された数列の一 報項をかめたりするともに、事象の再帰的た関係に着目し、日本の事象や社会の事象など を教学的に扱う、数例の考えを問題解に活けること。 数字等場構造について関係し、自然数少性質などを見いてし、それらを数学的場前法を用い て証例するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察すること。	0	0	0	12
	率元 統計的な推測 ア、次のようた場所 ・様本両在の考え方について理称を深めること。 ・森本変数と確率分布について理称すること。	・指導等項 総材 者プロセス数字Ⅱ+8(数研出版) 4プロセス表成ノート数字の(数研出版) ・一人自台港水の信用等	【知識・技能】 様本順数の券え方について理解を保めること。 実数と確率分布について理解すること。	0	0	0	12
	定期考査			0	0		1
	展示 総計的心機期 ア 流のようを加騰及け性能を身に付けること。 - 3里分布と正規分布の性質や物像について理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を挙に付けること。 - 確毎分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分敵、標準偏差など を用いて考覧すること。	・指導率項 輸車実数の向と機、二項分布、正規分布 ・教材 ・教プロセス数学Ⅱ + B(製併出版) ・一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 継率要数と権能分布について理解すること。 【思考・判断・表現】 工項分台と正規のかじ賃令や機能について理解するとともに、議率分布や標本分布の特徴 を、確率変数の平均、分数、標準観遊などを用いて考覧すること。	0	0	0	12
	定期考査			0	0		1
3 学期	展示。減計的な機関 ア・波のようを出職し対策能を身に付けること。 ・正服分布を削いた区間推定及が成敗検定の方法を理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を存任付けること。 ・確保分布や増本分布の特徴を、確率変更の平均、分数、標準構造など を削いて勇敢すること。 ・目的に及じて標本顕著を設計し、収製したデータを基にコンピュータ 放との情報機関を用いて処理するなどして、母集団の し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察すること。	- 指車等項 毎届日: 標本、標本平均の分布、推定、仮政検定 - 教材 - 教子 - 教子 - 教子 - 女子 - 女 - 女 - 女 - 女 - 女 - 女 - 女 - 女	主体的に学習に取り組む機関 主統分を用いて近端を近くの競換を立方法と理解すること。目的に応じて標本機差を設 計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、研集 計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、研集 が、の労強や傾向を推測し判断するとともに、標本概在の方法や結果を批判的に考察すること。	0	0	0	14
	定期考査			0	0		78
_		l .	<u> </u>				